

防災コラム

危機管理課

第19回

地震発生時の電気対策

地震の火災の多くが電気火災

阪神・淡路大震災や東日本大震災など、近年の大規模地震発生時に発生した火災のうち、原因が特定されたものの半分以上が電気に起因する火災だったと言われています。地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災のことです。

感震ブレーカーとは

電気火災を防ぐには、自宅を出て避難をするときに、停電時であってもブレーカーを切ることで、その余裕がない場合に備えて、感震ブレーカーの設置が有効です。

感震ブレーカーとは、一定以上の揺れが発生した際に、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める装置です。その種類は、分電盤に内蔵型のもの、分電盤に後から装

置を取り付けるもの、コンセントに差し込んで使うものなど、さまざまなものがあります。なお、この感震ブレーカーは単に設置するだけでなく、感震ブレーカーによって通電が遮断されている間に、電気火災につながるような要因を適切に取り除くことが重要です。ヒーターや白熱灯等の周辺に可燃物がないかどうか、電気製品やコンセントに水がかかっていないかなどを確認しましょう。

停電時に困らない対策も

感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことも必要です。生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合は、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。また、夜間の照明確保のためには、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

地震以外の自然災害時にも大規模な停電が発生するおそれがあります。感震ブレーカーの設置に関わらず、平時から停電対策に取り組みましょう。



さまざまな感震ブレーカー